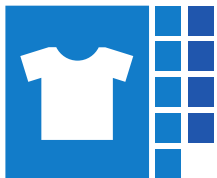


VOCセミナー ヨシハラシステムズ の取り組み



Cleaning & Laundry



株式会社ヨシハラシステムズ

代表取締役 吉原 保

本社：滋賀県彦根市大堀町380-1

設立：昭和56年5月26日(法人登記) 創業1959年

工場：2拠点

営業所：東京事務所

宅配事業：「せんたく便」を運営

ｸﾞﾙｰﾌﾟ事業：Cleaning.shopを運営

従業員数：40名（グループ：172名）

会員数：せんたく便30万名 店舗22万名

関連会社：株式会社ヨシハラクリーニング

店舗数：直営27店舗、FC4店舗



工場案内

名称	住所	敷地面積	年間処理能力
大堀工場	滋賀県彦根市大堀町 3 8 0 - 1	3,300㎡	220万点
高宮工場	滋賀県彦根市高宮町 2 8 0 5	4,000㎡	200万点

氏名：吉原 保

肩書：代表取締役

生年月日：1972年5月7日

出身地：滋賀県



経歴： 地元高校卒業後

1991年(株)京セラ入社

1993年(株)京セラ退職

1993年(株)ヨシハラ入社

2000年(株)サイバープラス設立代表取締役就任

2006年(株)サイバープラス売却

2007年(株)サイバープラス設立代表取締役退任

2008年(株)ヨシハラ代表取締役に就任

※(株)ヨシハラは現(株)ヨシハラシステムズ

当社は、宅配クリーニング事業とお預かりした衣類の自動トレースが可能なSaaSクリーニングテックを展開しています。

■宅配クリーニングお客様満足度4年連続No.1(※1)を獲得

安心して使える高品質の宅配クリーニングサービス「せんたく便」を展開しております。

「せんたく便」は、当社がネットの利便性を徹底追及して作り上げた、宅配クリーニングサービスです。

忙しい現代の生活に合わせた、便利で高品質なサービスを提供しています。各パックの料金のみで、コートやダウン、スーツもクリーニングしてお届けする安心の料金設定です。送料や手数料、しみ抜きや再仕上げも無料です。

■宅配クリーニング専用のクラウド管理システム「Cleaning.shop」

宅配クリーニング専用のクラウド管理システム「Cleaning.shop」の活用で、配送の自動化および顧客・商品管理などをシステム化し、煩雑な事務作業を軽減させることが可能です。

当社が開発した「Cleaning.Shop」は、宅配クリーニングをインターネット上のみで完結することができるシステムです。受注・集荷・管理・納品などが一括で行えるため「管理面でのコスト負荷が減少できた」「煩雑な事務作業を大幅に軽減できた」などのお声を、多くの企業さまより頂いております。

※1調査方法：インターネット調査 調査期間：2021年7月1日～5日
調査概要：宅配クリーニング会社10社を対象にしたサイト比較イメージ調査
調査対象：全国の20代～50代の会社員と主婦1015名
アンケートモニター元：ゼネラルリサーチ



創業は1960年に先々代が京都のクリーニング会社でクリーニングを学び彦根に戻り開業、1960年代は、家業として創業、営業は個人外交中心で（御用聞きスタイル）各家庭や施設にを回りクリーニング品を集めて回る時代でした。

個人外交全盛期



2代目の時代に新興住宅などニュータウンが各地に
できていた時代
個人外交で音楽を鳴らしながら廃品回収スタイルで
一軒一軒クリーニングの受注で回っていた。





1970年代取次店として商店の軒先
をお借りして店舗展開を開始



現在では食品スーパーなどのテナントに入
ることを中心に店舗展開をしています。





Cleaning & Laundry

そして3代目で現在ネットでの受注を行い全国展開を行い、関東を中心に全国に幅広く利用いただいている。

又、料金体制などをEC販売でも出来るように利用料金の設定を工夫し点数での料金体制に変更

これにより、通常の物販販売店などのでの取り扱いが可能となった。





せんたく便とは、インターネットから注文を受け付け、
指定の日時に宅配業者が自動集荷を行い、顧客の希望日時
にご希望の場所にお届けする
パック型の宅配クリーニングサービスです。

累計利用者数

30万人

年間受注点数

1,000,000 着以上



・クリーニング洗浄液の種類

大きく2種類の洗浄方法がある

ランドリー（水洗い）※水性の汚れに強い

（綿・麻など植物系繊維・インナー

（直接肌に触れる物は比較的水洗い出来るものがほとんどです））

ドライクリーニング（水以外の溶剤）※油汚れに強い

（ウールやシルクなど動物系の繊維の洗浄に優れている）

・ドライクリーニングの種類

石油系溶剤（ゾール（工業用油））（コールドマシン）

パクロロエチレン（ホットマシン）

フッ素系溶剤（ホットマシン）

シリコーン溶剤（ホットマシン）

・ホットマシンとコールドマシンの違い

ホットマシンは、洗から乾燥までが全自動です。

それに対しコールドマシンは、洗浄と乾燥が分離されている。

ゾール以外は、ホットマシンの機械だけである

国内のドライクリーニング洗濯機で石油系溶剤のシェアが70%と大きなシェアであります

・クリーニングの工程について



① 受付

お客様から品物を預かります。
点数確認など行います。



② 検品

シミ、変色、キズ、形態変化等の点検、ポケットチェック。
組成表示・取扱い絵表示を参考にクリーニング可・否の判別を行ない、預かり証を発行し、品物にタグを付けます。



③ 分類

品物の素材やタグを参考に、「ドライクリーニング」「ランドリー（水洗い）」
「ウェットクリーニング」など、工程別に分類します。



④ 前処理

洗濯機でクリーニングを行う前に、汚れのひどい箇所を落としやすくする為、事前にシミ抜き等を行います。

・クリーニングの工程について



⑤ 洗淨

品物の特徴やお客様のご要望に合わせて、クリーニングを行います。また、糊づけや特殊加工なども、この段階で行います。



⑥ 検品

洗い上がりをチェックします。



⑦ シミ抜き・再洗

汚れが落ちていない場合や通常の洗淨工程では無理なものに対して、部分的なシミ抜きを行ったり、再度洗濯機にて洗淨を行います。



⑧ 乾燥

衣服に合わせた最適な乾燥を行います。製品によっては、乾燥機を使用しない場合もあります。

社長就任直後にタンブラー式乾燥機を溶剤が回収できる装置に全て切り替えることを決断。

2008年2月に代表取締役役に就任した直後の同年4月に、全ての乾燥機を溶剤が回収できる乾燥機へと切り替えた。

- コスト面に対して大きな課題があり、毎日大量に消費する石油系溶剤の削減に取り掛かる。
- 水以外の溶剤で洗うことを総称するドライクリーニングは、水で洗うと型崩れや縮み、色落ちが発生するものに適している。
- 当社のドライクリーニングは、最もポピュラーな石油系溶剤のゾールを使用し、洗浄装置と乾燥機を使って洗濯している。
- 社長就任直後、業務用クリーニング装置の代理店からドライクリーニングで発生するVOCを排出抑制できる乾燥機として紹介いただき、環境に配慮した取組の一環として切り替えることに。

溶剤の回収・再利用によるコスト削減効果の高さは、溶剤回収乾燥機の大きな魅力に。

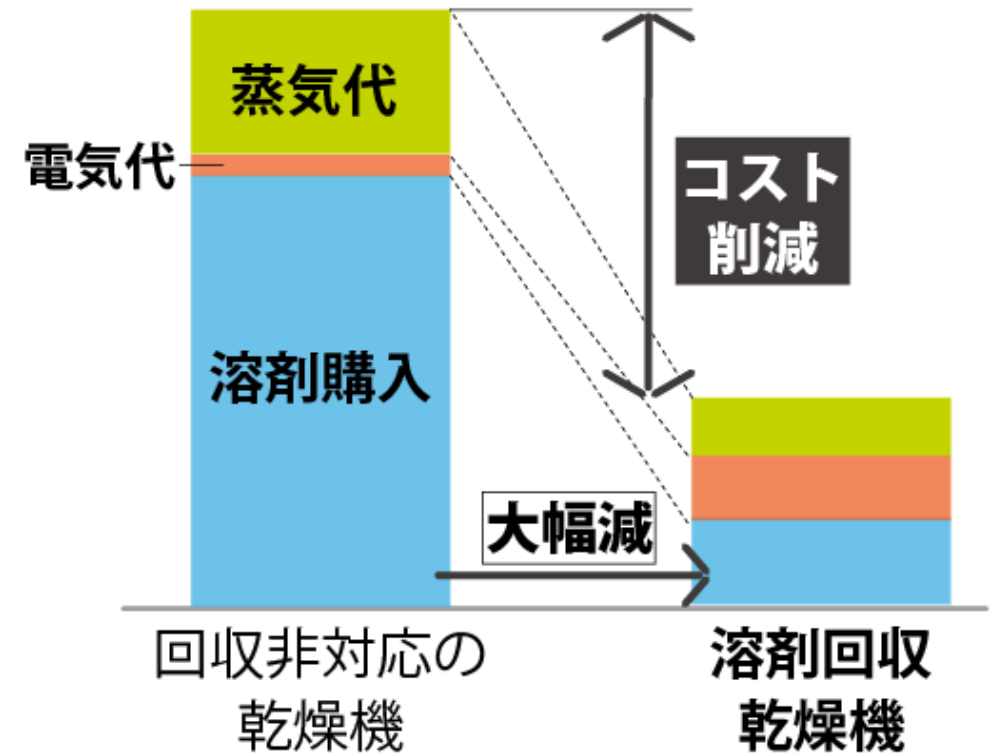
タンブラー式乾燥機を溶剤が回収できる装置に全て切り替える事で当時の事業規模で1000～1200万円の削減効果と算出。このことで導入への決断となった。

(以下、事例集を抜粋)

「タンブラー式乾燥機を本社工場と高宮工場で合計20台所有しており、ハンガー式乾燥機（後述参照）4台と合わせると1日に200～250リットルの溶剤を回収しています。1ヶ月の工場稼働日数を掛けるとかなりの量になりますし、最近では原油価格に比例して溶剤の価格が高騰しており、コストパフォーマンスが高まっています。

また、溶剤が回収できるタンブラー式乾燥機は、回収非対応の乾燥機と比べて、値段は1割ほど高いだけなので、クリーニング業者の多くは既に導入しているものと思われます。」

溶剤回収乾燥機と非対応乾燥機のランニングコスト比較



溶剤が回収できる タンブラー式乾燥機



矢印箇所回収した溶剤が溜まっている。



溶剤が溜まる容器は
蓋で閉まっている。

溶剤が回収できるハンガー式乾燥機



衣類をハンガーにかけた
まま乾燥できる。



乾燥時に揮発した溶剤ガスを、
冷却装置(写真左・黒い箱)で冷
却・液化させた後、溶剤とし
て回収。1日2回、溶剤をバケ
ツ(写真右)で回収する。

削減内容

現在の年間消費量 10万リットル

回収未対応の消費量 50万リットル（推定）

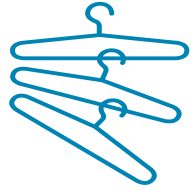
大幅に40万リットル近くの削減効果となった。

現在の物量や稼働で換算すると約5000万円近いコスト削減になった

その他

タンブラー式乾燥機では、乾燥できないデリケートな素材などは、従来自然乾燥行っていたが、立体式回収乾燥機の導入により、

ほぼ全てのドライクリーニング製品の溶剤回収の効果を得られるようになった。



＼せんたく便の目標／
ハンガーのリユース率100%



弊社では、SDG s（プラスチック環境ごみ問題）の取り組みの一環として、ハンガーのリユース率100%を目標に使用済みハンガーの回収を実施しております。



＼せんたく便の目標／
・排水量の削減
・プラスチックの削減



クリーニング工場で、生分解性がある洗剤を利用し、排水量の削減を実施
コンシューマー向けに同じ洗剤を販売、販売に販売は、量り売りを実施

2021年せんたく便のハンガーの使用本数・ **799,344** 本

ハンガー回収率
100%を実現すると

約 **80** 万本 × **9.8g** = **7,840kg**
二酸化炭素の軽減に繋がります

- ・排水量の削減
- ・プラスチックの削減



環境に配慮した、洗剤のに切り替えと一般消費者にたいして、量り売りの実施でプラスチックの削減と水を守る取り組みを行う

※「海をまもる洗剤」は、世界基準（OECD）で、89.2%の生分解性が認められ、洗浄力はもちろん、環境にもお肌にもやさしいものになりました。



環境への取り組みは、大切だと思います。社会的にも継続した取り組みが必要です。

しかし、企業の中で、大きなコストかけて環境への取り組みは、継続的に難しいと感じております。経済的なメリット、コスト削減の中で実現出来ないと継続した取り組みや効果を得られないかと思っております。

コスト削減を考える中で、結果的に環境への配慮を考え得る取り組みが必要だと考えていおります。



ご清聴ありがとうございました